授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　ファッション工科基礎科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			服装造形　論Ⅰ	・衣服全般の基礎知識を習得する。（縫合の基礎、作図基礎理論、体型観察） ・服作りの基礎となる服の構造、デザイン表現、作図方法、素材の扱い方、縫製方法を各アイテムにおいて習得する。 ・バザー作品を通し、ボランティア精神の育成と既製服としてのデザイン、縫製法、検品、販売までの流れを学習する。	1・通年	120	4	○			○			○	
○			服装造形　デザインⅠ	・ドレーピングの基礎知識を習得する。（ボディについて、布の準備、基礎ドレーピング・マーキング・ドラフティング） １　基礎Ⅰ（一般知識・縫い方の基礎）　基礎縫いAミシン縫い・B手縫い ２　体型研究　身頃原型・スカート原型（1/4・実物作図）・トワル製作・試着補正・レポート ３　スカートⅠ　デザイン・パターン・実物製作・レポート	1・通年	120	4			○	○			○	
○			服装造形　パターンメーキングⅠ	４　シャツブラウスⅠ　デザイン・パターン・実物製作・レポート ６　子供服　デザイン・パターン・実物製作・レポート ７　バザー作品　文化祭バザー作品実物製作・検品・販売 ８　スカートⅡ　デザイン・パターン・実物製作・レポート ９　ジャケットⅠ　デザイン・パターン・実物製作・レポート	1・通年	120	4			○	○			○	
○			服装造形　ソーイングⅠ	10　ワンピースドレスⅠ　デザイン・パターン・実物製作・レポート 11　パンツⅠ　デザイン・パターン・実物製作・レポート 12　ドレーピング基礎（文化ボディ）　胸ぐせダーツのバリエーション（アームホールダーツ）	1・通年	210	7			○	○			○	
○			量産技術概論・実習	アパレル製品の生産について関心を持たせ、一品作りと量産の違いについて認識させること目標とする。 実習として工業用ミシン・アイロンを主とした生産機器の安全な使用方法を習得する。 生産指示書類の見方に関する講義や特殊機器見学を行い工業生産に関する理解を深める。	1・通年	30	1	○		△	○			○	

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　ファッション工科基礎科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			自由研究ＩA	・服装造形の全ての細目において、各自興味を持ったテーマについて研究する。 ・各自の目標に合わせ既習細目におけるレベルの向上をはかる。	1・前期	30	1			○	○			○	
○			自由研究ＩB	・個々の能力に合わせて知識・技術を応用発展させ、各自の専門性を追及する。 ・発表会(展示会)を行うことにより、プレゼンテーション能力を養う。	1・後期	30	1			○	○			○	

○			ファッションビジネス概論	・ファッションビジネスの基礎知識の理解 ・ファッション産業構造の把握と専門業務の把握による職種選択のための対応	1・後期	30	1	○			○			○	
○			ファッションデザイン画Ⅰ	衣服と身体との関連性を理解し、構造を交えながら絵として表現する技術を学習する。 マーカーを使用した彩色表現を中心として、多様なアパレル素材の彩色方法を習得する。	1・通年	60	2			○	○			○	
○			クロッキー	様々なものの見方を通じ、ものを見て描く事・表現につながる描写と楽しさを再認識する事と合わせ、個性を伸ばす為の観察力・デザインイメージを見る側に伝える基本描写能力・表現能力の習得を目的とする。	1・通年	30	1			○	○		○		
○			西洋服装史	古代から近世18世紀までは、その時代背景を踏まえ美術史や映画によって服飾を解説していく。19世紀近代以降は、パリオートクチュール・ビジネスが確立し、ファッションが産業化していく過程を解説する。20世紀以降、デザイナーの時代が始まり、合わせてデザイン史、音楽史、映画史などにも触れながら、多方面からファッション史の理解を深める。	1・通年	60	2	○			○		○		
○			服飾デザイン論Ⅰ	服飾デザインにおける色彩、形態、コンポジションについての講義及び演習を通して基礎的な知識と技術を身につけ、創造力、分析力を養うことを目標とする。 レベル設定:色彩の基礎知識や配色の基礎、形態の構成要素やデザイン展開、コンポジションのセオリーについて理解し、それぞれのテーマに沿ったビジュアル表現ができる力を有する。	1・通年	60	2	○			○		○		

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　ファッション工科基礎科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アパレル素材論Ⅰ	アパレル製品や各自制作物の素材に関心を持たせることを目標とし、アパレル(衣服)の構成要素である繊維、糸、布地の種類や特徴についての基礎的知識を習得させる。さらに代表的な綿、毛、絹織物の種類に関して、教材(テキスタイルファブリック)を活用しながら、糸の構造や織物組織などの特徴に着目させ理解を図る。	1・通年	60	2	○			○		○		
○			服飾手芸Ⅰ	服飾手芸全般における基礎知識を学び、それぞれの技術を基にして服飾造形及び服飾小物などに応用発展できるようにする。また、素材・テクニック・造形・色の組み合わせのバランス感覚を習得し、クリエイティブかつオリジナルな創作力を身につけることを目標とする。	1・前期	30	1			○	○			○	
○			服装解剖学Ⅰ	解剖学的な人体の構造を衣服パターンと関連づけながら理解させ、美的で機能的な衣服製作に必要な人体（骨格）に関する基礎知識を学習させる。次に人体を外観から観察し、形態やプロポーションを認識させる。	1・後期	30	1	○		△	○			○	
		○	英会話（自由選択）	日常生活の中,またファッションに関係する事例からトピックを選び、それに関連した英語表現を学ぶ。 文法事項の復習と補充、ロール・プレイを通した会話練習、聞き取り、英作文などを組み込んだ構成とする。	1・後期	30	1	○			○			○	
○			キャリア開発Ⅰ	『将来を考える』という基本テーマを通して、自身の今後のキャリアを考え今後学ぶべきことを考えるとともに、「聴く・話す・書く力（読む）」を養うことを目的とする ・各自の適性を把握し、進路について考え将来の方向性を決める。	1・通年	30	1	○			○			○	

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　ファッション工科基礎科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			特別講義Ⅰ	・ファッション業界の各分野において幅広い知識・技術を修得すると共に、各自の専門性を考える動機付けを目標とする。 ・レギュラー授業で包括できない部分の専門関連分野の知識を習得する。	1・通年	30	1	○			○			○	
○			校外研修Ⅰ	美術館見学等を通して、ファッション情報に関する見聞を広げる。 諸活動を通してコミュニケーション能力の向上を目指す。	1・前期	30	1			○		○		○	
		○	コラボレーションa	・1年次では、産業とのかかわりを持つことにより、企業とその実務を知るきっかけをつくり、課外活動(コンテスト活動など)への積極的参加を推進することを目標とする。 ・個々の能力に合わせて各自の専門性を追及する。	1・後期	30	1			○	○			○	
		○	プレゼンテーションデザイン演習	服装造形の課題を使用してプレゼンテーション資料を制作。その過程を通してプレゼンテーション資料の効果的なデザイン、情報整理など制作、実際のプレゼンテーションに必要な技術、考え方を演習を交えながら学ぶ。	1・後期	30	1		○		○			○	
合計				18科目	1,110単位時間（ 37単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 最終学年の修了、卒業必須単位数の取得	１学年の学期区分	2期
履修方法： 単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること	１学期の授業期間	15週

（留意事項）
1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
2　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アパレルデザイン論Ⅰ	人体の構造や運動機能を視野に入れ、素材の特性を活かした作品を平面裁断、立体裁断のテクニックにより個々のデザインの発想力と表現力を身につける。 1、ドレーピング スカート、胸ぐせダーツ、ブラウス ドレーピングによるデザイン発想（実物製作・レポート） 2、機能服からのデザイン発想 作図理論、デザイン、パターン、実物製作、レポート 3、ジャケット ドレーピング、作図理論、デザイン、パターン、実物製作、レポート 4、民族服 作図理論 5、皮革作品 作図理論、デザイン、パターン、実物製作、レポート 6、修了製作 作図理論、デザイン、パターン、実物製作、レポート	2・通年	120	4	○			○			○	
○			アパレルデザイン演習　デザインⅠ		2・通年	150	5		○		○			○	
○			アパレルデザイン演習　ドレーピングⅠ		2・通年	120	4		○		○			○	
○			アパレルデザイン演習　実技Ⅰ		2・通年	120	4			○	○			○	
○			ファッションデザイン画Ⅱ	各自の可能性を様々な角度から考え展開していく事を目標とする。前半は様々なテーマ、アイデアからのデザイン展開を考えデザイン表現をする楽しさを実感していく。各種画材のテクニックを学ぶ事で基礎から応用へと進展させ、後半は独自の発想（イメージ）をより具体的に表現できる実力を身に付け各自のテーマに沿った表現、展開をしていく。	2・通年	120	4			○	○		○		
○			デッサン	ものを見る目を養う＝対象物を客観的に見つめ。基本構造（構成、動き、立体感、質感など）をとらえる。見たものをそのまま描ける力＝感覚神経と運動神経の連係プレーを鍛える。描く、という事によって自分のクリエーションに新たな視点を見つける。	2・前期	30	1			○	○		○		

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			服飾デザイン論Ⅱ	1年次『服飾デザイン論』で学習した色彩の知識を基礎とし、ファッションデザインに活用するための具体的なデザインのプロセスとデザインについて演習を通して学習する。	2・前期	30	1	○			○		○		
○			造形演習	発想−表現−コミュニケーション　３つを連動させながらクリエーションの力をつける。 特に自分自身を見つめ、コンセプトをしっかり組み立てる力を養う。制作の姿勢が社会や世界に向いていること。 発想力、（特にグラフィックにおける）表現力、伝える力（プレゼンテーションスキル）の強化を目指します。	2・後期	30	1		○		○		○		
○			アパレル染色演習Ⅰ	概要アパレルデザインを行う上　重要である素材の染色加工に関する専門知識を養う。 理論・技法・工程など実技を通し習得する。　時代に沿った　各種表現方法を分析し構成する。	2・前期	30	1		○		○			○	
○			アパレル素材論Ⅱ	1年次の「アパレル素材論Ⅰ」で学んだ素材の知識を踏まえ、基本的知識を充実させ、アパレルデザインにおけるテキスタイルという観点から、素材の見方、選択のポイント、テキスタイル産地などについて、さらに消費性能面から判断し布地の選択や品質表示にもつながるよう知識と理解を深める。	2・通年	60	2	○			○		○		
○			服装解剖学Ⅱ	１年次で学んだ服装解剖学の基礎を発展させ、筋の構造を解剖学的に理解させる。さらに動態計測（石膏計測）により、衣服製作に必要な皮膚の運動量・変化を把握させ、計測結果を基に機能性大の衣服設計（デザイン）を行う。	2・前期	30	1	○		△	○		○		
○			ファッションプランニング演習Ⅰ	アパレル業界での業務推進に必要な知識を習得し、基本的なデザイン力、自己のアイデアを他者に伝えられる積極的なコミュニケーション能力を養う。デザイナー職に求められる、基本的なスキルを鍛え、就職活動や卒業後の進路に向けての意識を高め、更なる自己啓発を促す。	2・後期	30	1	○			○		○		○

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	アパレル商品企画Ⅰ	決められたターゲットやゾーンに合わせてデザインを行うことで、企業デザイナーとしてのスキルを学ぶことを目標とする。また、素材や価格設定、商品投入のタイミングなどを具体的に落とし込むことで、店頭においてリアルに売れる服のデザインを習得することを目指す。スカートをデザインし、トワルでプレゼンを行う。	2・後期	30	1	○			○		○		
○			グラフィックワークⅠ	ファッション産業におけるグラフィックの役割と有効性を理解し、ファッション表現のツールとしてパーソナルコンピュータ及びグラフィックソフトを使う能力を身に着けると同時に、各自のデザイン能力及びプレゼンテーション能力の習得、向上を目指す。 デジタルファッション画、コラージュの製作を通してグラフィックソフトの基礎技法習得を行う。	2・通年	60	2			○	○		○		
○			西洋美術史	複雑な成立過程を孕むようになった近代の西洋美術作品を中心に解説。単純に美術作品を紹介するのではなく、なぜそれらの傑作が生まれたのか、芸術家がどういう意図で作品制作を行ったのかを考察することで、クリエイションの方法論を探り、デザイン発想の引き出しを増やすことにつなげる。	2・後期	30	1	○			○		○		
		○	英会話Ⅰ	初級程度の英文法を学んだ学生を対象に、文法の復習と口頭でのアウトプットを主な目標とする。ファッションを専攻している学生を対象としているため、ファッション関連の語彙を増すこと、ファッション関連の表現に接することにも重点を置いたプログラムとしている。レベルは初級（中位）から中級まで。 レベルは初級の中位から上位まで。	2・通年	60	2			○	○			○	
		○	フランス語Ⅰ	初めて学ぶフランス語の音と仕組みに、母国語とは異なる面白さを感じられるよう、個々の興味を促し、発音練習を楽しめるようにする。日常生活で使われる簡単な会話表現を「聴く、話す、読む、書く」を通じて親しみ、基本文法の理解と共に簡単な自己紹介、質疑応答が出来るレベルから目指す。映画や音楽、ファッション、香水などの話題も紹介しながら、フランス文化に触れる機会も提供する。	2・通年	60	2			○	○		○		

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			キャリア開発Ⅱ	就職のために必要な「就職力」やコミュニケーション力を講義・演習・実習を通して身につけさせる。	2・通年	30	1			○	○		○		
○			校外研修Ⅱ	日本の伝統文化の中心である古都（京都、奈良）に赴き、仏教美術、仏像建造物、庭園などの美に触れ、またファッションショーや美術館の展示を鑑賞することによって感性、発想力を養い、美の本質を知り、教養を高める。	2・後期	30	1			○		○		○	
○			特別講義Ⅱ	アパレル産業の現状、先輩の実体験からのアドバイス、そして服飾造形にかかわる知識として、レギュラー授業に加えたい内容の講義。	2・通年	60	2	○			○			○	
	○		企業・学内研修a	アパレル業界の現場・現状を把握させるために、アパレル企業で実際に研修を受けることで、学校教育で体験できない実学を学ぶ。 就職希望者の企業研修期間中に平行して、企業研修に参加しない学生は学内研修を受講	2・後期	30	1			○		○		○	
	○		企業・学内研修b		2・後期	30	1			○		○		○	
		○	コラボレーションb	ファッションの動向、現状、情報、様々なデザイン、もの作りの考え方、クリエーションの一環として、コンテストやコラボレーションに参加、及び制作をする。	2・後期	30	1			○	○			○	
学年合計				18科目	1,110単位時間（ 37単位）										

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アパレルデザイン論Ⅱ	ファッションの多様化、個性化に対応しつつ、アパレル業界での企画及びデザイナーとして活動していく人材を育成する。課題のトータルな学習に伴い、個性を生かした感性の高いバランス感覚を養いながら、上級としての応用理論の実践と研究を展開する。 ・水着・インナーウェア　デザイン・パターン・実物製作・ポートフォリオ ・カジュアルウェアⅠ　デザイン・パターン・実物製作・ポートフォリオ ・カジュアルウェアⅡ　デザイン・パターン・実物製作・ポートフォリオ （カット・ソー） ・モードコピー　　半身立体　完成パターン ・ピエール　カルダンのジャケット　　半身立体　完成パターン ・ニューフォーマル　デザイン・パターン・実物製作・ポートフォリオ ・ウィンターコート　デザイン・パターン・実物製作・ポートフォリオ ・ウエストドレープ　半身立体　完成パターン スクエアネックドレープ　半身立体　完成パターン ・エルゴノミックワンピース　半身立体　完成パターン ・ラグランスリーブコート　半身立体　完成パターン	3・通年	120	4	○			○			○	
○			アパレルデザイン演習　デザインⅡ		3・通年	180	6		○		○			○	
○			アパレルデザイン演習　ドレーピングⅡ		3・通年	150	5		○		○			○	
○			アパレルデザイン演習　実技Ⅱ		3・通年	150	5			○	○			○	
○			工業ニット演習	ニット製品の製作工程や編立技術などを総合的に学び、アパレルの中のニットを理解できる人材を育成する。 ニットに使用される素材・編地・縫製技術を商品解説と共に実習を通じて理解を深める。	3・後期	30	1		○		○			○	

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ファッションデザイン画Ⅲ	自分自身のデザインテーマを明確に定め、そのイメージを具体的に描くデザイン力と技術力を身につける。 常にプレゼンテーション方法を考え、就職活動やコンテスト活動に向けて新たな表現と研究を続けることが目標である。	3・通年	60	2			○	○		○		
	○		ファッションプランニング演習Ⅱ	アパレル業界での業務推進に必要な知識を習得し、デザイン力、コミュニケーション力を高める。また、合同展示会という実践的なビジネスの現場へ出展し、ブランディングと商品企画力の重要性を深め、強化していく場を与える。「作品では無く、商品をつくる」という意識をもたせる。	3・通年	60	2	○			○		○		
	○		テキスタイル企画演習	１．デジタルテキスタイルプリンターを利用したテキスタイルプリントの工程・特徴を理解する。 ２．Photoshopを利用してプリント柄を作成できる技術を身につける。	3・後期	30	1			○	○		○		
		○	アパレル商品企画Ⅱ	・決められたターゲットやゾーンに合わせてデザインを行うことで、企業デザイナーとしてのスキルを学ぶことを目標とする。又、素材や価格設定、商品投入のタイミングなど、より具体的に落とし込むことで店頭でリアルに売れる服のデザインを習得する事を目指す。ポスターを製作し、最終プレゼンを行う。	3・前期	30	1	○			○		○		
○			グラフィックワークⅡ	Adobe Illustratorを使っての精密なハンガーイラストの作成及びデザインデータの展開 先染柄やプリント柄の図案作成などを学び、ビジュアル・プレゼンテーション（企画書）製作を習得する。	3・通年	60	2			○	○		○		
○			プリントデザイン	ハンドスクリーンプリントの図案構成から完成までを実習し、製作工程を把握する。（グループ実習）ハンドスクリーンプリントを主体に、その他の機械捺染も含めて、仕組みや特徴を理解する。 染色加工業の実務を理解し、アパレルデザイナーとしての対応力を強化する。	3・後期	30	1			○	○			○	

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			アクセサリー	アクセサリーは服を引き立たせるための小道具である。新しい素材を取り込み服とのコーディネートを意識したオリジナリティの高いアートアクセサリー制作、そして服作りのヒントになるよう展開している。	3・前期	30	1			○	○		○		
○			美学	西洋美術の歴史を学びながら、実際のデザイナー達がどのようにアートにインスパイヤされてコレクションをクリエイトしているかを、実例をあげながら学ぶ。	3・後期	30	1	○			○		○		
○			プレゼンテーション論・演習	これからのデザイナーにもっとも必要で、且つ日本でファッションを学ぶ学生達が一番欠けているコミュニケーション能力を高める事を目指す授業です。	3・前期	30	1	○	△		○		○		
		○	英会話Ⅱ	基本的な文法の確認をしつつ、ファッションをテーマとした会話の練習ができるコースを目指す。ファッションに関連した語彙を増やす事も目的の一つである。リスニングの練習も組み込み、英語運用力を高める。	3・通年	60	2			○	○			○	
		○	フランス語Ⅱ	基本的な文法の学習をすすめ、さらにフランス語の発音に慣れる事を目標とする。日常におこることをフランス語で説明ができ、またフランス語で簡単なコミュニケーションがとれるようになる事を目指す。	3・通年	60	2			○	○		○		
○			特別講義Ⅲ	アパレル業界で活躍している講師を招聘し、実社会の動向、現状、情報、未来への展望や、様々な関わりに対処する為の考え方、アドバイスを経験者の生の声で語って頂き、社会に目を向け、自己を見つめ直す機会として参考にする。	3・通年	60	2	○			○			○	
		○	コラボレーションc	ファッションの動向、現状、情報、様々なデザイン、もの作りの考え方、クリエーションの一環として、コラボレーションに参加、及び制作をする。	3・後期	30	1			○	○			○	

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
		○	インターンシップⅠ	各自の専門性追及と業界・業態・職業自体への理解を深め、実務体験することを目的とする。 希望するインターンは各自探してくることが条件。アポを取り、審査を受けて希望する企業、デザイン事務所、アパレルメーカー、テキスタイル企業、出版関連企業を対象として実務体験をする。	3・通年	30	1			○		○	○		
○			卒業研究・創作	３年間の集大成として作品を創作する。最終課題にふさわしいテーマを個々に設定し、独創的かつ自由なデザインで挑戦する。オリジナル素材作りに始まり習得したテクニックを思う存分に駆使する。アクセサリーからヘア・メイク、音響効果・照明・映像などに至るまで総合的にデザインを生かしてコーディネートし、卒業制作ショーで発表する。	3・後期	120	4			○	○			○	
学年合計				14科目		1,080単位時間(36単位)									
総合計				51科目		3,360単位時間(112単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 最終学年の修了、卒業必須単位数の取得	１学年の学期区分	2期
履修方法： 単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること	１学期の授業期間	15週

（留意事項）
１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科メンズデザインコース）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			メンズデザイン論	メンズデザインおよび服飾造形に関する理論的知識、審美的見識を有する人材を育成するために、専門的かつ高度な技能を教授研究するとともに、メンズアパレル業界に広く寄与できうる人材の輩出を目的とする。 １　紳士服の基本知識　スタイル　コーディネイト　副資材 ２　原型論　衣服製作のための人体計測　男子原型の作図法　原型論 ３　シャツ　『フレックスジャパン株式会社』とのコラボレーション「シャツ講座」連動　実物制作 ４　パンツ　デザイン展開と作図　パンツの縫製法／示範　実物制作 ５　ネクタイ　ネクタイの縫製 ６　部分縫い　箱ポケット／フラップ付き両玉縁／チケット／剣玉縁 ７　ベスト　デザイン展開と作図　ベストの縫製法／示範　実物制作 ８　卒業制作　ジャケットのデザイン展開と作図　ジャケットの縫製法／示範（毛芯仕立て） （フォーマルウェア　コート＝講義のみ）　実物制作　卒業ショー	3・通年	120	4	○			○		○		○
○			メンズデザイン演習　デザイン		3・通年	180	6		○		○		○		○
○			メンズデザイン演習　実技		3・通年	120	4			○	○		○		○
○			パターンデザイン論	授業概要：アパレル企業を始め衣料関係企業に於ける即戦力を目指した、パタンナーの育成。 到達目標：各アイテムの原型パタン作成に伴う、採寸方法、体型把握、実物型紙作製、着せ付けテクニック、補正方法迄。 レベル設定：メンズパタンナーの実技試験に対応する作図法で、シャツ、スラックス、ベスト、ジャケット、コートの各アイテムを機能性とデザイン性を加味した裁断方法で実習し型紙設計（パターンデザイン）を体型的に理解させる。 メンズパタンナーの実技試験に対応する作図法で、スラックス、ベスト、ジャケット、コートの各アイテムを機能性とデザイン性を加味した裁断方法で実習し型紙設計（パターンデザイン）を体型的に理解させる。	3・通年	120	4	○			○		○		

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科メンズデザインコース）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			グレーディング	消費者のニーズに対応すべく製品展開をすることを踏まえ、アパレルCADを利用してグレーディング（サイズ展開）を学ぶ。 グレーディングの基になる平面作図・パターン展開に始まり、基本的な理論に基づいたサイズ展開をおこなう。 手作業でもグレーディングができるように理解を深めつつ、アパレルCADの操作方法の習得をする。	3・後期	30	1			○	○		○		
○			工業ニット演習	ニットの基礎知識、商品知識を習得し、アパレルにおけるニット製品を総合的に理解する。	3・前期	30	1		○		○		○		
○			メンズファッション環境情報	メンズファッションデザイナーとしての情報収集能力、及び情報の咀嚼、活用能力の育成を目標とし、卒業後企業において、即戦力として活躍できるレベルの、実務的ワーキングスキル修得を目指します。	3・通年	60	2	○			○		○		
	○		スポーツアパレルデザイン論	・拡大するスポーツアパレル市場の基礎知識の習得 ・種目別素材開発、パターン開発の知識の習得 ・デザイン作成→プレゼンテーション。	3・後期	30	1	○			○			○	
○			ファッションデザイン画Ⅲ	どのような方法でアパレル業界に携わり社会に結びついていくか自ら考えようとする能力と 学生各自のアイデンティティーの確立を基にメンズデザインのプロとして業界に対し戦力育成を目指し就職対応のデザイン画ファイルを制作する。	3・通年	60	2	○			○		○		

		○	アパレル商品企画	決められたターゲットやゾーンに合わせてデザインを行うことで、企業デザイナーとしてのスキルを学ぶことを目標とする。又、素材や価格設定、商品投入のタイミングなど、より具体的に落とし込むことで店頭でリアルに売れる服のデザインを習得する事を目指す。ポスターを製作し、最終プレゼンを行う。	3・前期	30	1	○			○		○		
	○		グラフィックワークⅡ	アドビ・イラストレーターを使って精密なハンガーイラストの作成とデザインデータの展開。先染め柄やプリント柄の製作とシミュレーション。「デザインおよび企画プランのスピーディでわかりやすいビジュアル表現」を可能にする為のベース技術を学ぶ。	3・通年	60	2			○	○		○		

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科メンズデザインコース）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			プリントデザイン	１．デジタルテキスタイルプリンターを利用したテキスタイルプリントの工程・特徴を理解する。 ２．Photoshopを利用してプリント柄を作成できる技術を身につける。	3・後期	30	1			○	○		○		
○			企画論	学生レベルではなく企業間で行われている実践レベルのプレゼンテーションや企画立案を体験することにより就職活動や社会に出てからの即戦力になる企画力・技術を習得。	3・前期	30	1	○			○		○		○
○			メンズファッション史	古代から現在までのミリタリーウエア（軍服）などが公式服になっていく過程、また近代紳士服の原型であるスーツスタイルの誕生からデザインの変遷を見ていく。第二次世界大戦以降はストリートに見るメンズファッションをその時代の音楽や映画も合わせて考察する。そして男性服の流れを見る中で、デザインの発想力を高めていく。	3・通年	60	2	○			○		○		
		○	英会話Ⅱ	初級程度の英文法を学んだ学生を対象に、重要文法の復習とスピーキング、ライティングによるアウトプットを主な目標とする。 ファッションを専攻している学生を対象としているため、ファッション関連の語彙を増すこと、ファッション関連の表現に接することにも重点を置いたプログラムとしている。レベルは初級（中位）から中級まで。	3・通年	60	2			○	○			○	
		○	フランス語Ⅱ	フランス語を１年学んだ学生を対象としたクラス運営を目標とする。フランス語独特の音に慣れ、基本的な文法・動詞の活用ができるようにする。またフランス語で簡単で日常的にかわす挨拶ができるように、また初歩のコミュニーケーションをフランス語でできることを目指す。	3・通年	60	2			○	○		○		

授業科目等の概要

（ファッション工科専門課程　アパレルデザイン科メンズデザインコース）２０２２年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			特別講義Ⅲ	主にアパレル業界で活躍している講師を招き、実践経験をふまえた生の情報、リアルタイムな話題などを短期集中で講義していただき、就職や個人の将来の参考、目標とする。	3・通年	60	2	○			○		○		
		○	コラボレーションｃ	各自コンセプトに基づいたクリエーション性の高いデザインの表現力を向上させる。	3・後期	30	1			○	○		○		
		○	インターンシップⅠ	将来のキャリアを視野に入れ、各自の専門性追及と業界･業態･職業自体への理解を深める事を目的とする。	3・通年	30	1			○		○	○		○
○			卒業研究・創作	各自（又は、グループ）で研究テーマを決め、習得した知識技術を駆使し一年を通して研究、制作を行う事により探究心、計画性、自覚性の向上を目指す。	3・通年	120	4			○	○		○		
合計				15科目		1,110単位時間(37単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 最終学年の修了、卒業必須単位数の取得	１学年の学期区分	2期
履修方法： 単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること	１学期の授業期間	15週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。